学生シェアハウス＋アンテナショップ「青森屋」全国展開プロジェクト

全国各地に「青森屋」を！

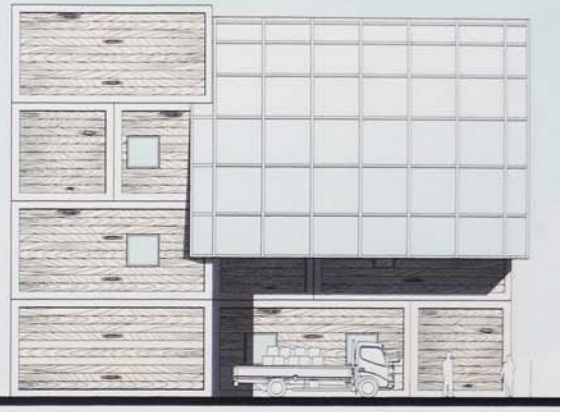
■地方の衰退が止まらない

国土交通省の「国土のグランドデザイン」によれば、２０５０年には、現時点で人が住んでいる地域の６３％で人口が半分以下に減るという。人が減れば地元経済も衰退し、働き口をなくした若者が大都会に流出する悪循環に陥ることになる。青森県もまさにそのとおり、工業高校はあってもその受け皿がないから県外就職せざるを得ない。青森県の工業高校は誰の役に立っているのか。優秀な生徒ほど県外の大手を希望する。学んだ専門知識を生かせるのだからその選択は当然だ。県外の大学に行っても同じ、そのまま地元には戻らない。戻れないのだ。地方の活性化には、原発と大型公共工事の増額しかないのか。

僕らが青森を宣伝します！

■僕ら若者の力を！

青森の活性化には、新たな産業も必要だろうが、まずは地場産品や産業を売り込む必要がある。誰がするの？青森県から全国の主要都市への進学者が相当数いる。そうだ、僕たちが郷土のためにがんばろう。進学先の全国の街々で、生の声で自分のふるさとの宣伝をするのだ！！「シェアハウス＋アンテナショップ」にして、安価な部屋代とアルバイトを提供すれば、ギブアンドテイクが成立。学業の合間を利用して故郷活性化に貢献できるという一石二鳥にもなる。ネット販売とは訳が違う。地元出身者が実物を見せて売るのだから。何を売るのかって？ありすぎてここじゃ無理。「青森屋」に是非来てください。

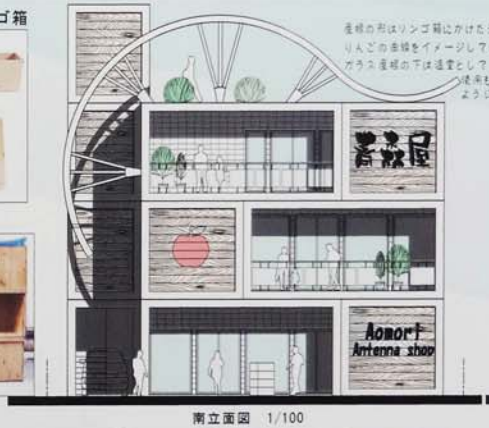


■リンゴの木箱

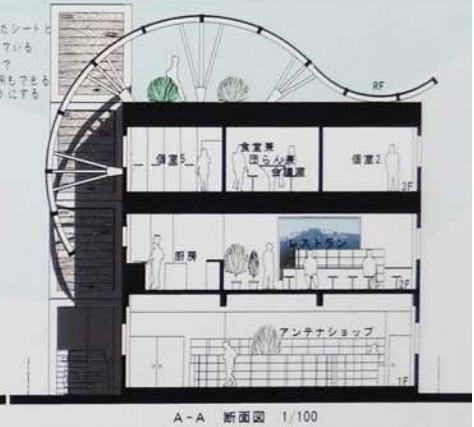
外観のイメージは重ねたリンゴの木箱にシートをかけたデザインとした。段ボールやプラスチックの箱もあるが、地元のリンゴ産業にはまだまだ不可欠である。この木箱がまた、実に重宝されている。父は子供の頃、リンゴ箱のベッドだったという。重ねて使える棚として活用無限大でもある。
今回のこの「青森屋」ではリンゴ箱を多用する。アンテナショップの売り場の棚にうってつけ、シェアハウスの便利な家具アイテムとして使いたい。

リンゴ箱

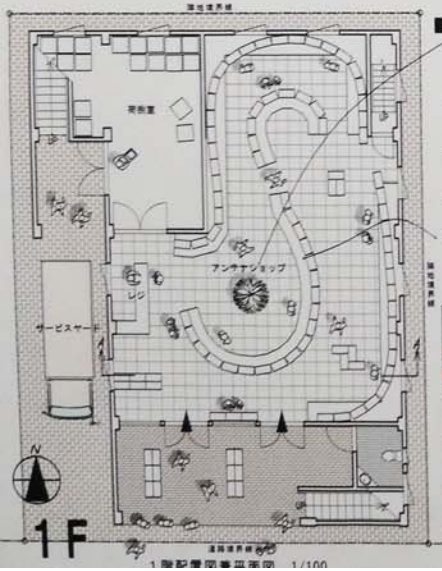
立面の外観イメージ →
りんご箱を３段重ねの上にシート



南立面図　1/100



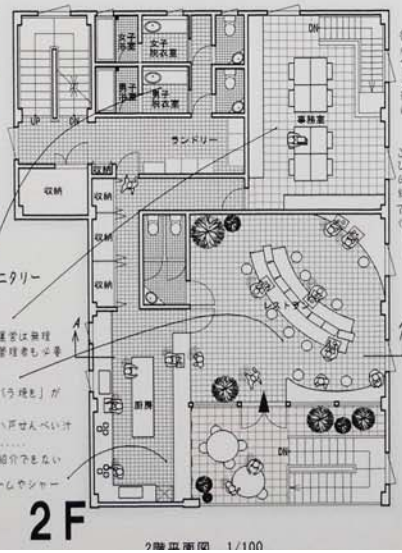
A－A　断面図　1/100



1階配置図兼平面図　1/100

■1Ｆはアンテナショップ
青森の特産品というと
りんご、ニンニク、長いも、
ホタテ、大間のマグロ……
加工品では
りんごの発泡酒、地酒
ねぶた漬、焼き肉のたれ
お菓子では
赤形せんべい、干し餅
クジラ餅、鉛筆いろいろ……
冬物では
津軽塗、ブナ工芸……
棚引棚にはりんご箱が似合う
名産品を挙げたらきりがないが
ここでは、工業製品とその技術も売り込みたい。

■シェアハウス住人のサニタリー
浴室、ランドリー室
■運営のための事務室
アルバイトだけでは運営は無理
システムを運営する管理者も必要
■青森B級しストラン
今年、十和田市の「バラ焼き」が全国優勝した。
バラ焼きを以外にも、八戸せんべい汁
黒石のつゆやきそば……
これまたありすぎで紹介できない
りんごのソフトクリームやシャーベットもある

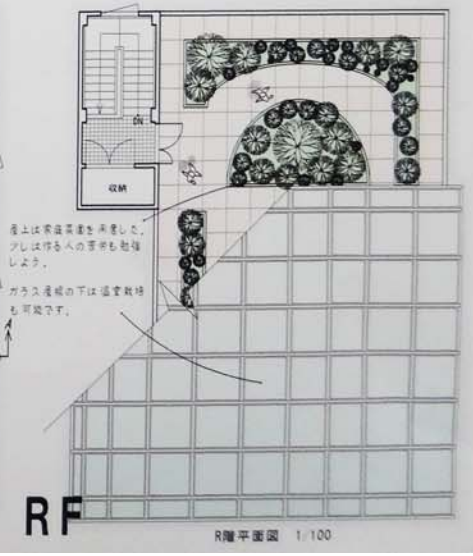


2階平面図　1/100

各部屋の広さ約6畳。
風呂等の設備はシェアしているのでこの広さで許して。
部屋の家具として
りんご箱は使い放題

こんな細長い部屋がひとつでもちゃったら青森ブームしている。結構使いやすいはず。でも、責任を取って僕の部屋にします。

■3Ｆはシェアハウス
この運営スタッフの部屋として、３室用意した。
今、若者の間にシェアハウスが流行っている。
でもここのシェアハウスは地元活性化という目的があるので、他よりは気楽じゃないかも知れないが、やりがいがあって、結構人気が高いだ。
中央に、食堂・厨房・会議室を兼ねたスペースがあり、ここで青森活性化のいろいろなアイデアがうまれればいいな。



3階平面図　1/100

屋上は家庭菜園を兼ねた。
少しは作る人の苦労も勉強しよう。
ガラス屋根の下は温室栽培も可能です。

R階平面図　1/100